

## 第3回日本気象学会ジュニアセッション開催報告

教育と普及委員会

### 1. はじめに

第3回日本気象学会ジュニアセッション（以下、「ジュニアセッション2017」）を、2017年度春季大会の4日目（5月28日（日））にポスターセッション方式で開催した。ジュニア世代に発表の場を提供する、という社会貢献を目的とし、大気や気象に対する若い人たちの興味や探究心が高まることで、より豊かな社会の招来に繋がることを期待している（天気，vol.63，p.1024）。

以下に、準備段階や開催状況、今後への検討課題など、アンケート結果を踏まえながら報告する。

### 2. 準備から開催まで

前年秋から、全国都道府県の教育委員会や高校等への通知、学会ホームページへの掲載などを通して参加を呼びかけた。第2回までは学校の先生方の異動を考慮して4月初旬を締切としていたが、ポスター会場を確保しやすくするため、今回2月中旬までに仮申込み、4月中旬までに予稿原稿を添えて発表申込みをしてもらうこととした。その結果、応募件数は仮申込みが20校から35件、発表申込みが中学校3校を含む19校から31件あり、昨年の約2倍となった。地域も北海道から鹿児島まで13都道府県にまたがり、参加者の層が

広がっていることがうかがえる。参加校のうち Super Science High-school (SSH) 指定校は約半分だった。

ジュニアセッション2017は大会4日目午前のポスターセッションの時間帯に合わせて開催し、当日来場した生徒は59名、引率および同行者が29名、計88名で（第1図）、昨年より同行者（親族等）の増加が顕著だった。発表件数とともに来場人数も2倍近くに増加したが、大会実行委員会に控え室を確保していただき、事前説明や発表認定証交付（第2図）をスムーズに進行することができた。

一般会員のポスターセッションよりも30分早い11時からポスター発表を開始し、12時30分までの1時間半にわたって熱心な発表と質疑・コメントが交わされた。今回も多く的一般会員が来場し、後半は各部屋とも移動がままならないほどの盛況ぶりだった（第3図）。ポスター発表の内容は、雲や雨、太陽光や湿度など、身近な気象を対象としたテーマが多かったが、古気候やエルニーニョ、生物気象や流体実験について調べた発表もあった。いずれもよくまとめられていて、レベルの高い発表であった。学校で日頃からの調べ学習の指導の成果が出ているものと考えられる。

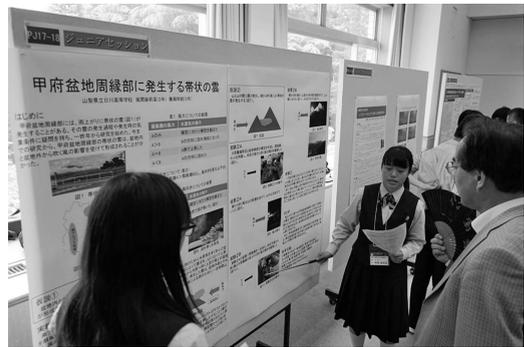
参加者アンケートでは今回も「専門家からの質問や



第1図 発表の前に、発表者全員の全体写真。



第2図 発表認定証交付の様子。



第3図 ポスター会場での発表の様子。

コメントをたくさんもらい、とても参考になった」、  
「他校の発表を聞いて刺激を受けた」という回答が多数寄せられた。このような発表機会の活用希望は毎回非常に高く、「楽しかった」「またやりたい」との回答も多かった。全体として好評だったといえ、「大気や気象に対する若い人たちの興味や探究心を高める」という目的がよく達成されていることが窺われる。

今回は、ポスターセッション後に昼食を兼ねた交流会を実施し、生徒同士、先生同士の懇談の場を設けた。これまでのアンケートで交流会を希望する声に応えたもので、参加19校中15校から生徒43人、引率及び同行者21人が参加した。生徒の間では調査を進める中で苦労した点などについて、先生の間では発表に向けた指導やジュニアセッションへの参加で苦労した点などについて、和やか且つ貴重な情報交換の場になった。

同日午後で開催された公開気象講演会への参加も5名あり、熱心に聴講する姿が見られた。一方で、残念ながら帰路の時間の関係で参加できない、という声も聞かれた。公開気象講演会の情報を早めに周知するなど、今後改善策を講じたい。

### 3. 今後の検討事項

これまで春季大会に開催してきたが、アンケートでは秋季大会での開催を望む声もある。しかし、調査・研究期間が1年からそれ以上とする回答が半数以上だったことや運営のマンパワーを考慮すると、当面は年1回で春の開催が妥当だと考えられる。開催を知ったきっかけは、これまでの参加校やSSH校に出したダイレクトメールが多かったが、学会ホームページ、教育委員会、口コミなどの回答もあり、引き続き様々

な手段で参加を呼びかける努力をしたい。

今回は参加の動機付けになるよう、公益社団法人全国高等学校文化連盟（高文連）の後援を得たが、これにより参加しやすくなったとの声がアンケートに寄せられた。さらに来年度は、3回以上の開催実績を必要とする文部科学省の後援を得られるように努める。アンケートで先生が参加の制約事項として挙げた理由は、今回も日程と予算が拮抗しており、旅費の補助を希望する意見もあった。旅費の補助を実現することは容易ではないが、そういった希望があることは承知しておきたい。

申込みを2段階にしたことで参加者の不都合は特に無かったようである。講演企画委員会や大会実行委員会との連携をよりよくして、スムーズな運営に繋がるようにしたい。今回は初めて日曜日の開催になった。アンケートでの開催曜日の希望は日曜日が土曜日よりもやや多く、参加者が増加した一因になっていた可能性がある。曜日の選定は大会日程にも依存するが、参加しやすい日程について引き続き情報収集に努めたい。開催趣旨に鑑みて、共同研究者を含む発表者全員に対して「発表認定証」を交付している。「発表認定証」はカラー版の予稿集とともに生徒・先生の両方から高評価を得ており、今後も継続したい。

ポスターセッションでの反省点としては、生徒同士がお互いの発表を聞けなかったことである。今後はコアタイムを設けて入れ替え制にするなどの対策を検討する予定である。また、「気象研究の指導者を紹介してほしい」という要望が、第1回、第2回に続いて先生から挙げられた。できるだけ早急に、学会として組織的に対応できる体制を整えたいところである。

ポスターセッション後のエクスカージョン的なイベ

ントとして、これまで、施設見学、公開講演会の聴講、交流会を試行してきた。いずれも好評であり、今後もできるかぎり有意義なものを企画できるように検討したい。今回のアンケートでは、春季大会の他のセッションを聴講する希望が増加したことから、より積極的な情報提供を検討したい。

#### 4. おわりに

ジュニアセッション2017も盛況且つ成功裡に終了することができた。ジュニアセッションは春季大会中に開催していることから、講演企画委員会と大会実行委員会の双方との連携・協力が非常に重要であり、これまでも多大なご協力をいただいている。また、参加者の募集等では日本気象予報士会のご協力も大きな推進力となっている。ここに改めて、大会実行委員会、講

演企画委員会、日本気象予報士会、日本気象学会会員皆様のご協力に対し、謝意を表したい。

今後も継続的に開催して、ジュニア世代に気象学の裾野を広げられるよう、次回に向けた準備を進める所存である。なお、ジュニアセッションのこれまでの開催計画、発表予稿、開催当日の様子（スナップ写真）、アンケート調査の集計結果などを気象学会ホームページに掲載しているので、参照されたい ([http://www.metsoc.jp/about/educational\\_activities/junior\\_session](http://www.metsoc.jp/about/educational_activities/junior_session))。

#### 参 考 文 献

教育と普及委員会、2016：第3回日本気象学会ジュニアセッション開催のお知らせ ～発表者を募集中です～。天気，63，1024。